

【別紙】令和2年度 令和新時代創造県民運動活動表彰の審査結果

○知事表彰（最優秀賞）1 団体

団体名・代表者名	活動名・地域	活動内容	審査会での講評
鹿野町河内果樹の里山協議会 会長 佐々木 千代子	果樹の里山プロジェクト (鳥取市)	地域住民、行政、NPO 等が連携して、約 4ha の耕作放棄地を整備し、果樹、野菜等を育て、ジャムの製品化等に取り組む果樹の里山プロジェクトを展開している。令和 2 年秋には、旧公共施設を利活用して、鳥取大学の学生を含めた約 60 人のボランティアで、直販市、クイズやビンゴゲーム等を様々な企画を盛り込んだ「果樹の里山まつり」を初開催し、2 日間で約 600 人が集った。	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化、人口減、耕作放棄地等、「マイナス」を全て「プラス」に変えていくエネルギーが素晴らしい。具体的な取組が見えて、楽しそうな活動の展開が分かりやすい。 ・地域と外部の人材を大いに活かしながらのプロジェクトは素晴らしいモデルケースである。地域の振興と活動の将来性を特に評価する。

○協賛企業賞（あいおいニッセイ同和損保賞）1 団体

団体名・代表者名	活動名・地域	活動内容	審査会での講評
子ども文庫 Pippi&Lotta (ピピロッタ) 主宰 塩 邦恵	子ども文庫 Pippi&Lotta (鳥取市)	自宅の一室を開放した私設図書館に、1,200 冊以上の絵本や児童書を揃え、閲覧や貸出しを行い、親子の交流の場にもなっている。令和 2 年のコロナ禍では、室内利用を 1 組 1 時間の予約制にしたり、事前に利用者の年齢や興味に合わせて選んだ本を自宅前で貸し出す「ドライブスルー方式」にしたり、運営方法を見直しながら活動を続けた。	<ul style="list-style-type: none"> ・強い思いがあれば、一人の力でも成し得ることを学ばせてもらった。このような小さなコミュニティーの拡がり大きなコミュニティーにつながっていくと感じた。 ・本の貸し出しドライブスルーなど、今のニーズにあった取組である。

○協賛企業賞（大塚製薬賞）1 団体

団体名・代表者名	活動名・地域	活動内容	審査会での講評
特定非営利活動法人ひだまり 理事長 岡田 隆	高齢世帯、高齢独居世帯、昼間独居世帯、身障者世帯の在宅生活支援 (米子市)	公共交通機関の利用が困難な高齢者等に対し、通院や買い物のための移動手段を提供し、照明器具の交換や買い物代行等の家事支援を行い、地域の高齢者が安心できる生活環境を提供している。また、空き家の見守り、家屋の維持管理、耕作放棄地の除草を行い、地域の環境保全活動も行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の高齢化社会にとって重要な活動である。 ・実施回数が多く地域から必要とされていることが伝わる。 ・大切な地域課題で有益な活動である。引き続き展開してほしい。

○知事表彰（一般部門優秀賞）3 団体

団体名・代表者名	活動名・地域	活動内容	審査会での講評
小鴨シニアクラブ協議会 会長 北村 隆雄	ハガキ出し運動 (倉吉市)	新型コロナウイルス感染症の影響で各種行事が中止される中、「つながり」や「フレイル予防」のため、180 人の会員にハガキを配布し、各人がハガキを書き、近くのポストまで出しに行く「ハガキ出し運動」に取り組んだ。また、この運動を通じて公民館等に送られてきた賛同のハガキなどを地元公民館や県内図書館を巡回展示するなどして活動の様子を伝えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でこそ心の温まる活動で、人と人との関わり方も素晴らしい。 ・「地元の自慢」を紹介するようなテーマを設けた内容にすれば新たな広がりもあるように感じた。 ・県内のモデル地区であり続けてほしい。
ボランティア団体 MCC 代表 三浦 幸治	ボランティア団体 MCC による地域貢献活動 (湯梨浜町)	子ども食堂を 2 回実施し、ひとり親や子育て世帯を対象に、食材に地元大山豚を使用した約 150 個の弁当を約 60 世帯に提供した。また、協賛した地元企業のお菓子も弁当と一緒に提供した。12 月には、梨農家から寄付された梨袋に子どもたちが絵を描き、LED にその梨袋を覆って点灯する光の実プロジェクトを実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が中心に様々な人と連携した活動で素晴らしい。 ・コロナ禍の対応をしていることを評価する。
地域支え愛ほっとガーデン トミさんの家 会長 石田 倫義	住民主導型いきいき交流サロン トミさんの家 (米子市)	集会所がなく、地域交流があまり盛んではない地区にて、空き家を活用し、近隣の住民を対象とした「いきいきサロン」等、フレイル対策としての役割を担い、自治会や社会福祉協議会等と連携した地域福祉活動の支援を行っている。住民主体の活動を意識しながら、事業所が地域のコーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家活用の観点からも、都市部だけでなく、中山間地域でのモデルケースになると感じた。 ・地域のつながりが希薄である地域に合った必要性の高い活動である。 ・活動内容がユニークで面白い。前向きな活動を評価したい。

		役として、住民同士の交流の場を創出している。	
--	--	------------------------	--

○知事表彰（若者活動部門優秀賞）2 団体

団体名・代表者名	活動名・地域	活動内容	審査会での講評
鳥取城北高等学校 アントレプレナー部 部長 澤 敬乃 <small>さわ たかえ</small>	AKARI BEER for CHILDREN ~ 高校生の鹿野地ビールラベルデザインを通じた国際協力事業~ (鳥取市)	地元企業が醸造している地ビールのボトル用ラベルを高校生がデザインし、そのビールの売り上げの一部を、鳥取市に拠点を置き国際協力活動をしている事業者を通じて、発展途上国の子どもたちに筆記用具や教科書の形で還元する事業に取り組み、高校生への社会教育の機会創出と発展途上国における学習環境整備の同時解決を目指している。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献に着目したことが素晴らしい。 ・継続性もしっかり担保され、SDGsに着目しており、新規性もある。 ・多様な企業や団体と連携して事業を実施した点を評価する。
鳥取県ユニセフ協会 学生会部 TORICEF(トリセフ) 代表 森田 恒志郎 <small>もりた こうしろう</small>	SDGs 教育カードゲーム「XVII (テンナナ)」による SDGs 教育と普及 とっとり発の SDGs 教育普及モデル創出 (鳥取市)	子どもたちの命と健康を守るユニセフの理念に賛同した大学生が、子どもたちに SDGs を知ってもらうため、教育機関や家庭で気軽にできるオリジナル SDGs 教育カードゲームを開発した。また、ゲームの駒には地元の木材を使用した。完成後は、このゲームを用いた体験会を県内で開催し、子どもたちに SDGs を普及させる取り組みを行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・大人でも理解し難いSDGs を、小学生を対象とした教育カードゲームとしたことが素晴らしい。 ・県内各所での開催と普及を期待している。「とっとりモデル」を全国に広めてほしい。 ・鳥取の資源、課題についても深めてほしい。

○知事表彰（企業 SDGs 部門優秀賞）1 団体

団体名・代表者名	活動名・地域	活動内容	審査会での講評
サントリーホールディングス (株) コーポレートサステナビリティ推進本部サステナビリティ推進部 部長 北村 暢康 <small>きたむら のぶやす</small>	「とっとり共生の森」及び「とっとり共生の里」活動 (江府町)	奥大山の森林にて、元放牧地のササや低木を刈って草原を復活させ、ヒノキ・スギの間伐などの整備、ブナ林のササ刈りによる広葉樹林の再生を行った。前年までに地元住民と共同で耕作放棄地をそば畑等に整備し、令和 2 年は、収穫したそばを使って、地元子ども会を対象としたそば打ち教室の開催、手打ちそばの販売(商品化)等を行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や地域住民との連携も素晴らしく、今後の展開が楽しみである。 ・公益性、積極性があり好感が持てる。地域におけるモデル活動であり、環境保護活動につなげている。鳥取の水のよさを今後も PR して発展させてほしい。